

学校教育目標 「**おい**に学び **やさしく まっすぐ**伸びる」児童の育成
～夢と希望にあふれる元気いっぱいの学校～



みんな大好き大山っ子

有田町立大山小学校

学校だよりNo.26

令和8年10月26日発行

文責：校長 川原 悟



右上のQRコードを読み取っていただくと大山小学校ホームページからも御覧いただけます。

幼保小連携による1年生の公開授業～お手伝いと一人一人の成長～

有田町では、幼稚園・保育園・小学校がスムーズにつながり、地域全体で子供たちの豊かな成長を支える幼保小連携事業を推進しています。

先日は、本校の1年生で生活科の公開授業を行いました。町内の幼稚園、保育園、小学校から多くの先生方が訪れ、子供たちの学びの様子を参観されました。

今回の授業では、「家庭でのお手伝い」をテーマとし、ただ言われたことをするのではなく、自分で計画を立てて実践し、やってみて気付いたことを振り返る探究的な学びに取り組みました。

この取組の中で、特に子供たちの心を大きく動かしなのが、家庭から寄せられたメッセージでした。家庭で直接掛けられる言葉はもちろん大切ですが、クラスという全体の中で自分の頑張りが保護者の方の思いが紹介されることで、子供たちは照れくさそうにしながらも、誇らしげで満足そうな笑顔を見せていました。温かいメッセージをお寄せいただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

家庭でお手伝いをすることは、責任感や感謝の心、そして「家庭の一員である」という自覚を育むかけがえのない教育の機会です。この学びをここで終わらせず、ぜひ続けて取り組んでほしいと思います。

食と命の大切さを学ぶ ～木村まさ子さんをお迎えして～

先日、有田町文化交流大使の木村まさ子さんをお迎えし、講演会を行いました。講演では、「いただきます」「ごちそうさま」という私たちが何気なく使っている言葉の本当の意味や、言葉がもつ温かい力、命の重みについて分かりやすくお話しいただきました。また、「自分のことをもっと好きになってほしい」というメッセージもあり、子供たちは真剣な眼差しで耳を傾けていました。

講演後には、子供たちからたくさんの感謝の言葉や感想が送られ、木村さんの思いがしっかりと一人一人の心に届いたことを感じさせる、温かな時間となりました。

この講演会の背景には、食育を通じて子供たちに日頃の暮らしや身の回りの当たり前を見直し、感謝の気持ちをもって生活してほしいという願いがありました。食べ物の命をいただくこと、作ってくれた方々の思い、そして自分自身を大切にすることを改めて深く考える貴重な機会となったと感じています。

「食」は、子供たちの体を形作るだけでなく、豊かな心を育む大切な基盤です。ぜひこの機会に、御家庭での食事の時間や「いただきます」「ごちそうさま」という言葉についてお子様と話していただき、食や感謝の気持ちの大切さを見直すきっかけにいただければ幸いです。

